喩辞名詞の意味的特性が隠喩形式選好に与える影響
ー 意味役割理論にもとづく役割名と対象名の区別から ー

中本敬子　黒田 航　楠見 孝

文教大学　情報通信研究機構　京都大学大学院

kenakamoto@nifty.com　kuroda@nict.go.jp　kusumi@mbox.kudpc.kyoto-u.ac.jp

目 的

- フレーム意味論 (Fillmore, 1982, 1985)およびフレームネット(Baker et al., 2003)の知見を受けた意味役割の理論(黒田・井佐原, 2005; 黒田ほか, 2005)に基づいて，具体名詞の意味的区分を提案する．
  - 対象名（意味型名）
  - 機能/役割名（意味役割名）
  - 対象指示性の程度が異なる．
- 名詞の区分によって，比喩に使われたときに，隠喩形式が好まれる程度が異なることを示す．
  - 役割名の方が，対象名よりも，隠喩として使用しやすい．

名詞のクラス

- 意味役割の理論 (黒田ほか, 2005)によると，具体名詞は少なくとも2つのクラスに区分できる．
  - 対象名（意味型名）
    - 内的属性の集合によって定義される特定のカテゴリーを指す名詞（e.g., ブルドック, リンゴ, 少女 …）．
  - 機能/役割名（意味役割名）
    - 状況相対的に定義される役割を指す名詞．適当であれば，どんなモノでもその役割を満たせる（e.g., 番犬, デザート, 友達…）．
  - 同様の区別は Gentner ら（Kurtz & Gentner, 2001; Gentner & Kurtz, 2005）も提案
- 対象指示性の強さが役割名と対象名で異なる．
  - 対象名が字義的で指示的な要素を強く活性化させるのに対し，役割名はそうではない．

比喩理解と隠喩選好

- 比喩理解の際には，喩辞の字義通りの意味は抑制される (Gernsbacher et al., 2001; McGlone & Manfredi, 2001; Glucksberg et al., 2001)．
  - 喩辞の二重参照機能説（Glucksberg & Keysar, 1990）を支持．
    - 比喩カテゴリー：主題を事例として含む抽象的カテゴリー．主題と喩辞は類包含的関係→ 隠喩形式．
    - 字義的カテゴリー：喩辞が字義通りの指示的意味．主題と喩辞は単なる類似関係→ 直喩形式．
- 字義通りの指示的意味が抑制しやすいときは，隠喩形式が好まれやすくなると予測される．
- 「喩辞が役割名のときには，対象名のときよりも，隠喩形式への選好が強くなる」ことを検証する．

方 法

材料

- 16対の喩辞名詞を4つの主題名詞句と組み合わせて，比喩表現を作成．
- それぞれの比喩表現について，隠喩形式と直喩形式の両方を作成．
  - 直喩形式
    XXXX はまるで XXXX のようだった．
  - 隠喩形式
    XXXX はまさに XXXX だった．
- 主題
  - 「（無意味綴り）というXXXX」形式で4つの主題を作成．
  - 名詞には，具体性の高いものを選択

1	セホという楽器
2	スユという人
3	ホヌという国
4	ルエという魚

- 主題
  - 役割名－対象名の対 16対を次の手順で作成．
  - 「日本語語彙大系」(NTTコミュニケーション研究所, 1997)から25個の自然カテゴリーを選択．
  - それぞれのカテゴリーから，2つの名詞（対象名，役割名）を選択．
  - 4人の判定者が，次の文に各名詞を埋め込んだときに，各文が容認可能かどうかを3段階(0, 0.5, 1)で評定．
    - 未飽和/関係名詞がある（西山,1990, 2003)というだけでは，うまく役割名を認定できないため．

1	この犬は番犬に向いている/向いていない。
2	彼はある犬を番犬にした．
3	その犬はこの場では番犬だ．
4a	この犬は番犬になる見込みがある．
4b	この犬は番犬になる恐れがある．

- 緑部分にカテゴリー名を，オレンジ部分に選択した名詞（役割名，対象名の候補）を埋め込んだ．

- 役割名，対象名の例
  - 容認性が平均2.5以上の名詞を役割名，1.5以下の名詞を対象名として選択した．

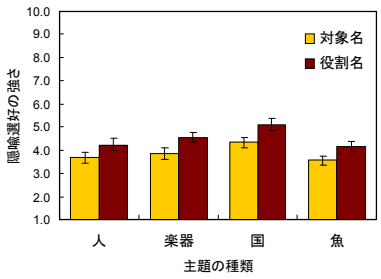
カテゴリー	役割名	M	対象名	M
木	街路樹	(3.80)	広葉樹	(0.00)
犬	番犬	(4.00)	柴犬	(0.25)
光	照明	(3.63)	月光	(0.13)
糸	横糸	(3.38)	絹糸	(0.38)
猫	野良猫	(3.13)	シャム猫	(0.13)

手続き

- 40人の大学生が隠喩形式と直喩形式のどちらが自然でしっくりくるかを10段階で評定した．

スユという人はまさに番犬だった．	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	スユという人はまるで番犬のようだった．

結 果 と 考 察



隠喩選好の平均値（エラーバーはSE）

- 予測と一致して，喩辞名詞の意味クラス（対象支持性の強さ）によって，隠喩形式への選好の強さが異なることが示された．
  - 隠喩形式への選好は，喩辞が役割名のときの方が，対象名のときよりも強い (F1(1, 39)=22.63, p< 0.001; F2(1,30)=9.22, p< 0.001).
  - 隠喩選好の強さは主題名詞によって異なる (F1(3, 117)= 6.6426, p< 0.001; F2(3, 3)= 6.302, p< 0.001).
    - 理由は不明（メトニミーの生じやすさが影響?）
  - 交互作用は有意ではない．
- 現在，「AはB（のよう）だ」以外の形式でも同様の傾向が確認できるかについて，コーパスを使って調査中（9月開催のJCLA 07@京都教育大学にて発表予定）．
- 慣用的隠喩は，多くの状況で固有の意味役割名が無いために生じていることを示唆
  - e.g.〈情報の受容〉で〈受容する情報を選択するもの〉→ “フィルター”
  - この場合，比喩は修辞的効果を意識して生まれたとは限らない．
- ある対象がある役割の典型事例であるとき，代表例として役割名の機能を果たす可能性
  - e.g. “ヒトラー”→〈暴君的独裁者〉を表す．
- 比喩（特に隠喩）を使用の側から検討する必要

主要参考文献

Gentner, D. & Kurtz, K. (2005). Learning and using relational categories. In W. K. Ahn et al. (Eds.), Categorization inside and outside the lab. APA.

黒田航・中本敬子・野澤元 (2005). 意味フレームに基づく概念分析の理論と実践. 山梨正明ほか(編) 認知言語学論考第4巻 ひつじ書房.